



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第47号

発行日

平成24年 3月1日

◇ 目 次 ◇

- | | |
|--------------------------------------|------------------|
| P2 PVの集い・部会打合せ | P5 宮島二流記 平田 広三郎 |
| P3 研修会 白川講師「観察会の運営
と安全」山田講師「応急処置」 | P6 新春弥山登山 |
| P4 弥山登山道の清掃
エコ・イノベーションメッセ | P7 南岩国で冬鳥観察会 |
| | P8 入浜定点観測会⑦・維持管理 |
| | P9 スナメリツアー・編集後記 |



「ホシハジロ 雌雄の 遊泳」

冬から春にかけてのこの時期、美しい姿に変身したカモたちの多くはカップルを作りつつあります。南岩国の調整池では、仲良さそうにお昼寝したり泳いだりしていました。

ホシハジロは潜ることが出来るカモ。潜水して水藻、草、草の根、小型の貝などを食べるようです。そのためか浮かび上がった時に、嘴が泥まみれの姿をよく見かけます。思わず笑ってしまいます・・・(^：^)

(写真・文 大西 順子)

4月7日(土) 総会

平成24年度PVの会・定期総会を下記の要領で開催しますので、会員の皆様、多数ご出席ください

日時 4月7日(土) 9:30~12:00

(受付 9:00~)

場所 杉之浦市民センター大研修室

※欠席の人は委任状を提出してください

※午後から小なきり浜の観察会；清掃活動と入浜定点観測①を実施します

PV年末「会員の集い&研修会」

日 時 12月3日(土) 9:00~17:00

場 所 宮島商工会館(4F)

参加者 足立 岩崎 大西 小方ペア 小川
奥田 金山 川崎 北野 五石 小林ペア
佐伯 坂本 佐渡 佐藤(佐) 佐藤(庸)
島 末原 田中 中道 野呂田 平田
平野 舩田 松田 村上 横路 吉崎
(研修会参加者) 池田 田渕 富田
環境省 榊自然保護官 大高下 AR
来年度入会予定者 15名

1. 会員の集い(司会:舩田副会長)

(1)全体会議(活動概況等) 9:00~9:30

「村上会長あいさつ」

- ・体調不良による退会者2名
- ・3.11大震災、雨による入浜調査の中止
- ・雨天確率の中止判断基準の話し合い。
- ・来年度活動計画の意見交換・提案
土・日の集中開催について・高齢化に伴う体力低下への対策・他団体の動向
社会的高評価に伴う行動規範について



「各部会長あいさつ」

- ・小林観察部会長
本年の観察部会行事の報告
- ・末原環境整備部会長
セブン・イレブン助成金により、「宮島
弥山原始林の植物」・「シカを救うのは
わたしたち」の改訂版、各3000部が完

成、樹木名板の再整備

- ・足立広報部会長

「みせん40号」(設立10周年記念号)
が国立国会図書館に収蔵された。

(2)部会打合せ 9:30~11:00

(3)全体会議 11:00~11:30

部会打合せの概況が報告された。

観察部会では来年も入浜観測を続けるが
6年目になるので集大成の年としたい、
水族館の裏側、スナメリツアーへの参加
など提案された。

環境整備部会とも雨天対応の統一基準の
設定について活発な討議がなされた。

◇雨天対応基準◇

2月の幹事会で統一基準が決まった

NHK 6~7時、降水確率

広島県南部、午前

原則 50%以上は中止

※個々の活動内容によって判断する

2. 会員研修会(12:30~17:00)

(1)「観察会の運営と安全管理」

主催:環境省 12:30~14:00

講師 「高原の自然館」(北広島町)

白川 勝信(かつのぶ) 学芸員

- ・榊自然保護官あいさつ
- ・講演:「高原の自然館」の概要説明
- ・「雲月山の山焼き(4月実施)」

草原の山、広島では他は深入山のみ

- ・「生態系サービス」の提供、即ち都会
の人には非日常・地元と同じ目線
- ・「ボランティア」は生活が保障された
人が自分の知識を生かしたいと思い
実施する無償奉仕である。

・連帯構造に注目→地域住民→都市から
のボランティア→地域の子供→生産物
(和牛)→観光・登山(満足感)→最初へ

・観察会の運営

参加者は 30 人以下、それに対して



白川講師

講師一人、事務局二人。子供プログラムでは親同伴
実施判断は携帯電話（1万円/年・台）を連絡用に確保
カメラを向けたら笑ってください。笑うぐらいの余裕が必要。

苦しい顔では次の人が来ない。

・安全管理の考え方

「見える化」 番号付きゼッケンや帽子
子供用は別の色

「組織化」 班による組織化、一人の受け持つ人を減らす。

「共有化」 各パートの色の共通化、文字だけでなく絵入りボードを提示
要するに参加者にどう「伝わる」か！また参加者にも意思を持たせる。

(2)「野外活動における応急処置」

主催：広報部会 14：00～17：00

講師：「日本赤十字社」山田 純一

赤十字救急指導員(ボランティア)

ア. 大災害（想定外）への対応

目新しい事柄を列举すると

・地震時には落ち着き、揺れが収まってからガスの元栓を切り、電気のブレーカを落とし避難する。



AED 操作の実地体験

・病院で貰う持病の薬は予備を確保

・ホイッスルを持つ

・保険証・小銭（10・100 円）を持つ

・高層階は揺れが大きいので家具の固定

・避難から 2 時間で塩分、4 時間で糖分。

いずれにも満足するのはクッキー

イ、熱中症対策

・早めの水分補給

・汗をかくと塩分補給（塩アメ）

・塩分と水をとってもけいれんがおきたら塩をなめる。

・自家製スポーツドリンクは、1ℓ当たり小さじ一杯の塩・砂糖とかんきつ系のしぼり汁

ウ、AED の使用体験

エ、大型ハンカチ・パンダナの救急対応

3. 年末懇親会 17：15～18：30

例年どおり紅葉谷公園 山村茶屋

出席者 24 名（入会予定者 2 名）

研修会講師の白川・山田さんにも車の運転でお酒が飲めないのに出席頂いた。



山村茶屋での懇親会

4. 最後に

研修会では観察会実施者の生の声そのまま、当会の観察会の実施にも大いに参考になる話やユーモアたっぷりの独創的な工夫による事故対応の話（平成 18 年に一度お願いしている。）などが聞けた、アルコール付きの有意義な一日でした。

（ 平田 広三郎 ）

弥山登山道清掃

日 時 12月10日(土) 9:00~15:00

参加者 足立 大西 小方(嗣) 小川 奥田
川崎 小林ペア 佐伯 佐藤(佐) 渋谷
末原 野呂田 平田 平山 丸平 村上
横路 吉崎 環境省 大高下 AR

師走に入ったというのに暖かい日が続いている12月10日(土)年末恒例の弥山登山道の清掃が宮島ロープウェイの協力で行われました。今年も例年通り路面の清掃と溝の土砂除去を行いました。また自然では分解しないビニールやアルミ缶拾い集め持ち帰りました。

去年は悪天候で中止になったせいか、どの溝も土砂で埋まっていたましたが、会員の手際のいい作業ですっかり綺麗になる様子は見ていて気持ちの良いものです。

今年はまだウリハダカエデの美しい紅葉が見られるせいか登山客が多く、皆さん「ご苦労様」「有難うございます」「ニイーハオ」などと声をかけてくださいます。

暖かいと思っていたのに突然汗ばんだ身体にちらちらと初雪が舞い降りてきて、少し感動してしまいました。

会員と来年度入会予定の研修生、合わせて33人と多人数で賑やかな清掃作業が予定通り15時に終了しました。

新しい年に綺麗になった登山道を踏みしめて登られる登山者を思い描き、なんとなく幸せな気分になりながら家路につきました。

(野呂田 恵子)



登山道清掃作業参加者

エコ・イノベーション メッセに出展

広島で初めての環境をテーマにした「エコ・イノベーションメッセ 2011in ひろしま」が、11月25・26日(金・土)が 県立広島産業会館西展示場にて開催され、宮島 PV も参加となった。一昨年 RCC のエコロジー大賞を受賞したことであり、RCC エコロジーファンドのブースに主催者より出展を要請されたものである。

設立 10 周年記念写真展での「新宮島八景」「宮島 PV 活動 10 年の歩み」を内容とした写真パネルで会の活動の紹介をおこない、また会報誌「みせん」や植物マップなどの多数の資料を展示した。



PV 展示ブース

参加の団体・企業・大学は 120 にのぼり、一日目は企業ビジネス向け、二日目は一般向

けのセミナーも数多く同時開催され、他に小宮山宏氏の基調講演などもあり盛りだくさんのイベントであった。

開催中は PV 会員ものべ 15 名が来館、全体の来場者数も 4800 名となり、成功裡に終了したと主催者発表があった。RCC はもちろんのこと NHK のニュースでも取り上げられ

ていて、関心の深さがうかがわれた。今回は広島で初の試みであったが、来年から毎年の開催が期待される。

(PV 参加者)

11/24 搬入 岩崎 川崎 小林

平田 村上 吉崎 (大高下)

11/25・26 足立 岩崎 金山

川崎 北野 小林 佐藤(庸)

末原 平田 舩田 松尾 松田

村上 横路 吉崎

(岩崎 義一)

宮島二流記

(その 11)

平田 広三郎

Q11:「曼荼羅岩の文字は何をあらわしているのでしょうか？」

弥山の七不思議の一つが、弥山本堂南側（裏側）下方の曼荼羅岩にある、弘法大師が彫られたと言われる「梵字」と「三世諸仏天照大神宮正八幡三所三千七百余神…」の文字列のことなのです。しかし文字列の解明への試みは、「三千七百余神」の数字の意味がわからないためできませんでした。

A11:「ヒントは平家物語にあったのです。」

このたびの平清盛騒動で「平家物語」を読みこの数字の意味が解り、そのことによって文字列と全体の意味が浮かび上がってきたのです。私なりの文字列の解釈と曼荼羅や弘法大師との関わりを記してみます。

それでは文字列の意味を順を追って説明していきます。「三世（さんぜ）諸仏」とは、仏教において前世・現世・来世（過去・現在・未来）のことを言いますので、過去から未来に渡る諸々（もろもろ）の仏を表すのだと思います。「天照」とは天皇の祖先神アマテラスオホミカミ（古代国家の最高神）を表します。「大神宮」とは大がつくと天皇との関わりを示しますので伊勢神宮のことです。それでは何故伊勢大神宮としなかったかと言いますと、伊勢神宮はアマテラスオホミカミ（内宮）とトヨウケノオホカミ（外宮：地元の神）を同格で祀っているためではないかと思われます。「正八幡」とは「正」は正・従のように上位や主となるものを示します。「八幡」は八幡神のことで皇室の守護神とされ、源氏は氏神としていました。元々九州の神で、特に宇佐八幡は中央の政治・軍事を始め皇位の継承等に託宣し、例の道鏡の事件にも関わっています。天応元（781 年）八幡神は、仏教外護・護国の神である「八幡大菩薩」となり、日本最初の神仏習合神として、平安の新国家仏教を開いた最澄と空海は盛んに八幡神を寺院の鎮守に勧請しています。「三所」とは三所権現即ち熊野権現のことで、本宮・新宮・那智の三所を言います。

さて「三千七百余神」ですが、「平家物語・巻の七（玄昉または還亡：げんぼう）」に「…日本六十余州、三千七百五十余社の、大小神祇…」とあります。これは前後の文章から「延喜式 天地神祇総三千一百三十二座」を表わしていることに間違いありません。「延喜式」とは延喜 5 年（905）に制定されたもので、大宝元（701 年）に制定された大宝（律）令の施行規則で、神祇制度（天皇の祭祀を国家的性格の皇室神道とするとともに全土の主要な神社を官社として朝廷に直結させたもの）他を定めたものです。また天地神祇とは、ヤマト政権が高天原に住む大和朝廷の神々を天神（あまつかみ）とし、服属した諸氏族の神々を地祇（くにつかみ）にしたことを言います。官社のうち官幣社は大社 304 座・小社 433 座、国幣社は大社 188 座・小社 2207 社計 3132 座となりますが、伊勢神宮は別格官幣社と言われるぐらい最高位の神社なのでこの中の数に含まれません。「平家物語」（14 世紀前後に成立）では 20% ぐらい多めの数を述べていますが、この数程度がその当時の人たちの認識だったと思われます。以上が文字列の説明ですが、全体的に矛盾のない文言で、過去から未来の全ての仏様や全国の神々が網羅されています。

曼荼羅という言葉は、サンスクリット語（梵語）mandala の音写語で、「本質（仏のさとの境地）を所有（具体的に図示・表現されていること）しているもの」という意味を表しますが、日本の密教では転じて大日仏を中心に諸仏、諸菩薩、諸神を図示した像（姿）を指します。

従って 文字列と曼荼羅はつながりが感じられますが、弘法大師（774～835）の作かといえば延喜式が後に作られていることから疑問が残ります。それでは誰が書き彫ったかということですが、求聞持堂で修行中の学識ある修行僧が「文字の曼荼羅」として残したのではないかというのが結論です。

（参考文献）

- ・「平家物語」下巻 高橋貞一
講談社文庫 2005 年
- ・日本宗教事典 村上重良
講談社 昭和 57 年

研修生も加わり

新春弥山登山

日時 1 月 7 日 (土) 9:00~14:30

参加者 足立 大西 小方 (嗣) 川崎 北野
小林 (勗) 佐伯 坂本 佐藤 (佐) 佐藤
(庸) 末原 富田 中道 野呂田 平田
村上 横路 六重部

9:00 宮島自然保護官詰所前集合。PV 会員 18 名、環境省自然保護官・AR2 名、PV 新規研修生 11 名、合計 31 名 盛会です。

今回は、観察の手引きとして、当会改定版「植物マップ」と広島県砂防課発行の「宮島砂防ポケットガイド」が配布されました。

町家通りを抜けて紅葉谷公園へ。岩窓の玄関には大晦日鎮火祭の新たな大松明が飾られていて、まだまだ松の内の風情です。

9:40 体勢を整え紅葉谷公園を出発。植物マップに記載の人気植物ウマノケタケも健在。冬場はソヨゴ、カナメモチの赤い実が目立ちます。また、本堂手前のアカガシに着生するトサムラサキのむらさき色も見事です。

6、10、13、15 号堰堤でゆっくりと休みながら、その間末原部会長から前述のポケットガイドにしたがって、16 号まである堰堤の工法や野面積み、谷積み、布積みなど石積みの特徴をあらためて説明いただきました。

11:45 霊火堂前で全員記念写真。正午丁度弥山山頂到着。快晴。万歳・・・今年も「心技体」が充実した素晴らしい年となりますように。

遠方西北の西中国山地の山々は、年末から

の寒波で雪景色。眼下の瀬戸内の島々も対岸の広島市街地もはっきり。今日の眺めは抜群で爽快です。

山頂は、広場も展望台も 2~3 百人の善男善女で混雑。昼食場所の確保にも一苦勞。

12 月の安全講習で教わった、野外活動必携物「呼子笛」を合図に集合・人数点呼。

12:30 下山開始。仁王門から大聖院コース。平成 17 年 9 月の 14 号台風による土石流災害状況と白糸川 1 号、2 号砂防堰堤の工法や特徴など末原部会長の説明を聴きながら、また、里見茶屋跡で遠景の水のない「幻の滝」を探しながら、さらに、植物ファンには貴重種のイズセンリョウの白い実を観賞しながら、全員元気で大聖院山門へ到着。14:05 ここで解散。お疲れさまでした。

(村上 光春)

春の公募観察会

本年度最後の公募観察会を

3 月 17 日 (土) に実施します
集合場所 9:00 大元公園休憩所
コース 大元公園~江之浦~室浜
江之浦では「新宮島八景」に選定されたヤマザクラを観賞し、室浜砲台跡、広大植物実験所内見学のあと帰途につく、往復 8 km の行程です。

会員の下見は 3 月 10 日 (土) です。

(観察部会)



霊火堂の前で記念撮影

「みせん」48 号発行予定

発行日 平成 24 年 6 月 1 日
原稿締切 // 4 月末日

皆さんの投稿を
お待ちしております。

野鳥の宝庫 南岩国で 冬鳥観察会

日時 1月28日(土) 9:30~14:00

天候 くもり

参加者 足立 大西 小方ペア 小川 奥田
北野 小林ペア 近藤 佐伯 末原 田中
中道 平田 柳瀬

大きな楠木に囲まれた公園に集合後、車に分乗して蓮田に移動。早速近くで姿を見せてくれたのは田の畔に立つケリ、少し離れた木にはカワラヒワ、向かいの田では冬鳥のタゲリ、タシギ、タヒバリ。水辺ではコガモの群が岸に上がってお昼寝中、バンやオオバンが首を振り振り採餌中、法面のススキの穂をつついてはいるホオジロのカップル、さらにモズやジョウビタキが草地で虫を捕っては枝に戻る姿はとっても可愛かった。海岸ではウミアイサのカップルが潜水を繰り返して採餌した後に気持ちよさそうに羽繕い、カンムリカイツブリは100羽近い群で休息していた。

稀にしか見られないハジロカイツブリの冬羽(ふゆばね)の優しい姿も見ることが出来た。防波堤の上ではハシビロガモやマガモが並んで日向ぼっこをしていました。

今季は異常と思われるほど鳥の姿が少ない。冬鳥は特に少ない・・・と心配する声や嘆きの声が聞かれる昨今に、2時間あまりで37種の鳥を見ることが出来たのは嬉しかった。

鳥見の「上り」は、キジバトが小枝を重ねた巣の中で静かに座っている姿でした。すでに10日間も続いているとのことで抱卵中と思われるが、何分最低気温が連日0度前後と

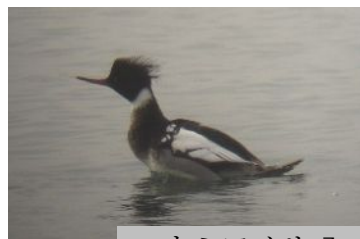


野鳥観察会の参加者

いう厳しい寒さの中です。心配ですが、あのまんじりともしない真剣な親鳥の努力がある限りきっと無事に孵化できると思いました。

担当してくださった近藤さん、案内してくださった地元の澤田さん、楽しい一日を有難うございました。

佐伯さんにはみかん農園を開放され、丹精こめて栽培されている、たくさんのみかんをいただき有難うございました。



ウミアイサ♂



イソヒヨドリ♂

確認できた
種 計37種

カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、スズガモ、ウミアイ

サ、トビ、バン、オオバン、ケリ、タゲリ、タシギ、セグロカモメ、キジバト、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、ツグミ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス

(大西 順子)

「宮島の雪景色」



釜谷会員が昨年2月の雪の日に撮影した「宮島雪景色」が「広島彩紀行」のカレンダーに採用され、1月の暦を飾っています。雪の厳島神社の情景は、まるで厳島八景の「御笠浜の暮雪」のようです。

入浜定点観測⑦ 及び維持管理作業

日時 平成24年2月4日 9:00～12:30

天候 晴

参加者 岩崎 小方(嗣) 小川 奥田 川崎
小林ペア 末原 中道 平田 平野 村上 横路
六重部 榎 自然保護官 入会希望者10名

春は名のための風の寒さや～の歌どおり、風がなければ立春にふさわしい暖かさでしたが、時折、海から吹く風は冷たく感じられる入浜で定例の観測と周辺の整備作業を実施しました。

今回は、来年度に入会を希望しておられる研修生10名も参加され、大人数での作業となりました。宮島栈橋前から入浜まではタクシーに分乗し時間と体力を節約しました。

ちょうど同じコースで修道高校生のマラソン大会があり、入浜は6.4kmの折り返し点になっていました。



以下、作業終了時の「まとめ」等の聞き書きです。

【水質調査】

水質などに特に変化はみ

られない。

水位：B地点で-14cm（8月より20cm低い）

pH:6.0～6.6 池の塩分：0.07～0.17%

COD：5～10

【水生生物】

チチブらしき魚をみかけたが、未確認。次回の楽しみにする。

【植物観察】

池の北側の金網の扉が開放されていたので、その中で、次のような新しい植物を確認した。

ナギ、オガタマノキ、ハマヒサカキ、ナワシログミ、コウヤマキ、ヒラドツツジ。

また、ビナンカズラと思われる木を見つけたが、春に花をみて確定する。

さらに、マンリョウが倒されていたが鹿は食べないので、どうしてかミステリー？



池の東側にイワタイゲキ（高さ5cm程度）が芽をだしていた。周りを小石で囲い踏み荒らされないようにした。今後の成長・繁茂を期待したい。

【維持管理作業】



池の周囲と砂浜のゴミ拾いをした結果、カキガラパイプを回収した土のうが8袋、その他の一般



ゴミ（プラスチック、ビン、缶など）が14袋と軽トラ一杯になった。一向に減らないゴミに腹立たしく

なるが、引き続き地道にやるしかないだろう。

鷹ノ巣高砲台跡へ登る

作業終了後、岩崎会員の案内で研修生4人は、入浜から鷹ノ巣高砲台跡に登って（↑）帰ったそうです。研修生は初めて見る砲台跡と上から眺めた入浜の景観にずいぶん感動したとのこと。

（川崎 昭壽）



定点観測・維持管理作業参加者

スナメリに逢いたくて

日 時 12月11日(木) 12:00~17:00

場 所 周防大島(集合:柳井港フェリー乗場)

参加者 大高下 AR 小方ペア 高橋保護官
(岡山) 全参加者 25名

環境省から案内のあった「広工大の上嶋先生の周防大島で行うエコツアー」に参加しました。船上からは寒かったけれど、上嶋先生のお話を聞きながら、スナメリクジラウォッチングをしました。なんとか3回だけですが、ジャンプをするのを見ることができました。



周防大島の伊保田港で船を降り、バスにて島巡りです。車中ではボランティアガイドの方のご案内、解説を聞きながら移動です。周防大島文化交流センターでは高木学芸員から、宮本常一館について解説をしていただきました。

シーボルト上陸記念碑を通過、ザザンセト東和の裏のセトノジキギクが咲き誇る離島で海岸の生きものの観察をしました。ケガキやカメノテもいて、きれいな海岸で、もっと貝の観察がしたかったのですが、時間がなく早々に移動です。

サザンセト東和で休憩し、柳井港へと戻って、まとめのお話があって解散しました。PVとは一味違う、楽しくて興味深いツアーでした。

(小方 嗣彬)

弥山植物マップの改訂版発行

植物マップ「宮島弥山原始林の植物」の改訂版がこのほど完成し、セブン・イレブンみどりの基金の助成により3000部印刷した。

この冊子は2002年に観察会のテキストとして広大植物実験所と共同で作成したが、05年の土石流災害で大聖院ルートが崩落するな

どして、周辺の植生が変わっている。

昨年夏からメンバーが紅葉谷、大聖院、大元の3ルートの植生変化を実地調査してまとめたもので、テイカカズラやウラジロマタタビ、アセビなど、国天然記念物の弥山原始林で観察できる37種の花や実の写真を掲載。原始林内に延びる大聖院、紅葉谷、大元の三つの登山道を記した



発行した改訂版

1/5000の地図に観察ポイントが分かるよう表示している。

宮島栈橋の宮島観光協会売店で1部300円で一般販売しているが、1月22日の中国新聞で紹介されたこともあり、地域の公共図書館等から展示希望が続出、好評のようである。同時に啓発冊子「シカを救うのはわたしたち」も同部数増刷した。(岩崎 義一)

◇ 編集後記 ◇

▼昨年宮島に渡った観光客が360万人を超えた、毎日、宮島住民の5倍の人々が宮島に入ったことになる、今年は清盛ブームで更に増えることが期待されている。PVが力を入れてきた入浜や鷹ノ巣へも観光客を呼び込むにはどうすれば良いか考えてみる必要があるそうだ。(足立)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局 環境省 中国四国地方

環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀6番30号

広島合同庁舎3号館1階

TEL(082)223-7450・FAX(082)211-0455

宮島詰所

(〒739-0505)廿日市市宮島町1162-18

(宮島栈橋2F)